（第１回　午前）

2022（令和４）年度入学試験問題

国　語

（試験時間：50 分）

《注　　意》

(1)　問題は 一 ～ 三 まであります。
(2)　解答はすべて解答用紙に書いてください。
(3)　受験番号、氏名を忘れずに書いてください。
(4)　解答用紙のみ回収します。
(5)　解答に際して、句読点、符号などが含まれる場合には一字分として数えます。

城 西 大 学 附 属

城　西　中　学　校

一　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

アンパンマンは戦っていて怖くないのですか、と聞かれることがあります。①アンパンマンも怖い時があるんじゃないかと思います。アンパンマンはヒーローの役をやらなくちゃいけないので、自分から怖いとは言えないんじゃないかな。ヒーローは大変なんですよ。

それから他のキャラクターはいろいろ食べたりするけれど、アンパンマンは泣かないし何も食べない。なぜかと言われてもなんとも言えないですけどね。それから、ばいきんまんやドキンちゃんは、いつも自慢ばっかりしていますが、アンパンマンは「ぼくはすごいんだ」とか「ぼくはエラい」とか自慢しない。慎ましいですよ。

正義は勝ったと言っていばってるやつは嘘くさいんです。

正義を行う人は非常に強い人かというと、そうではないんですね。我々と同じ弱い人なんです。でも、もし今、すぐそこで人が死のうとしているのを見かけたら、助けるためについ飛び込んでしまう。ちっとも強くはない普通の人であっても、その時にはやむにやまれぬという気持ちになる。そういうものだと思います。

火事で子どもが焼け死にそうになっているのを見れば、その子のお母さんは周りの人が止めても聞かずに飛び込んでいきますね。お母さんは必ずしも強い人ではなく、弱いお母さんだって子どもを助けなければいけない時にはそうなる。代わりに自分が死んじゃうかもしれないけどやる。

「アンパンマンのマーチ」の中に、

愛と勇気だけが友達さ

という歌詞があります。それで抗議がきたことがあるんだけど。これは、②戦う時は友達をまきこんじゃいけない、戦う時は自分一人だと思わなくちゃいけないんだということなんです。お前も一緒に行けと道連れをつくるのは良くないんですね。無理矢理ついてくるなら仕方ないけどね。

横断歩道もみんなでわたれば怖くない、悪いことをする時にも[a]グンシュウでやれば怖くないというのがあるけど、責任は自分で負うという覚悟(かくご)が必要なんだということなんです。

《　中　略　》

愛って何か。

③アンパンマンは時々、自分の悪口を言う相手のことを助けることがあります。アンパンマンはヒーローだから、それを❶ねたんで悪口を言うのがいるんだね。悪口を言っているのをアンパンマンは知っているのか知らないのか分からないけれど、彼等が[b]コマッテいる時にはアンパンマンは助けます。「悪口言ったぼくを助けてくれるの？」と聞かれても「気にしないで。誰にだって失敗はあるんだから」と言う。

それはアンパンマンの愛が大きいから言えることなんだね。そういう大きな愛は親子とか兄弟の中にいつもあると思いますよ。

それから、何かを決断する時、何かをやろうとする時には必ず勇気が必要です。スポーツでも仕事でもみんな必要。おびえていると何もできません。

勇気は目に見えません。ぼくは勇気ってなんだろうと思った時に勇気リンリンというくらいだから鈴(すず)の形をしてるのかな、リンリン鈴の音と同じだと思って、「アンパンマン」の物語ではユウキの鈴というキャラクターを作ってしまいましたけれど。アンパンマンだって勇気の花のジュースを入れないと何もできません。

線路に落ちた人を助けようとすると、助けた人は死んじゃうかもしれない。川でおぼれている子どもを助けようとすると、助けた人が死んじゃうということも非常に多い。事実、先生が子どもを助けるために川に飛び込んで子どもは助かったのに先生が死んでしまったという話もありますね。それでも飛び込むのです。

愛には、いさましさも含(ふく)まれていて、勇気には、やさしさが含(ふく)まれている。

死んでしまったのは、正しいことをしたからです。もし知らん顔をしていれば先生は死ななかった。そうやって④自分が傷ついてもやるという気持ちがなければ、正義は行えないんです。

アンパンマンは、自分の顔を子どもに食べさせるのだから、ある面では自己犠牲です。正義を行う場合には、本人も傷つくということをある[c]テイド覚悟しないとできません。

⑤普通の人でもヒーローになることはできます。誰でもなれると思いますよ。

でもそれは、追いつめられないと分からない。自分が⑥やむにやまれぬ立場にたった時でないとなれません。

でも、ヒーローになんてならない方がいいけどね。寂しいし、あんまりいいもんじゃない。誰かに感謝されたりもしないし。

ぼくが※1三越で働いていた時、みんな用事がなくても残業をしていたんですよ。当時、残業をすると手当がついて夜食も出ました。だから無理にでも残業するんですね。ぼくは定時にさっさと帰る。そうすると周りに悪く言われるんですね。みんなと一緒に居残りしなかったから。

本当は定時の間に仕事を終わらせるのが正しいんです。だらだらやって無理矢理残業するのは良くない。でも残業しないと誉められるかというと、なかなか立派だとは誰も言わないで悪口を言われる。いじめっ子をかばっても、あの野郎ひとりだけいいことやりやがってと悪口言われるのと同じですね。

社会でも同じことはあります。会社の全体で※2偽装をしている時に、それを※3摘発するとします。それは正しいことなんです。でも摘発した人はどうなるかというと、みんなにほめられるのではなく会社から※4左遷されたり、取引先から「あいつは[d]ヨケイなことを言うから危ない」と※5阻害されたり、あいつが言ったから会社がつぶれたと言われたりして、そうほめられやしない。本当に正しいことをしても、ヨケイなことをされたと逆にやられてしまうことはよくあります。

だから、みんな傷つきたくないから正義なんてやらない。長いものには巻かれろと巻かれてしまうわけ。部長が言うことなら、悪いなと思っても仕方なくやってしまう。[e]リョウシンはやや痛むでしょうけれどもね。それで責任は取らされる。

でも、それではいけないのですね。傷ついてもやらなくちゃいけない。そうしないと世の中はどんどん悪くなってしまうんですね。❷敢然として自分が傷つくことを恐れずやらなくちゃいけない。

ヒーローとは少し違うけれど、戦い方とか、強さ弱さっていうのは誰にでもそれぞれのやり方があると思います。

（やなせたかし　『わたしが正義について語るなら』）

※1　三越…三越百貨店のこと。

※2　偽装…ある事実をおおい隠すために、他の物事・状況をよそおうこと。

※3　摘発…隠している悪事などをあばいて公表すること。

※4　左遷…それまでよりも低い官職、地位に落とすこと。

※5　阻害…じゃますること。

問一　――部a～eのカタカナを漢字に直しなさい。ただし、送り仮名はひらがなで書くこと。

問二　――❶・❷の語句の意味としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

❶　ねたんで

ア　やっつけてやろうと思って　　イ　いやがらせしてやろうと思って

ウ　うらやましくて憎いと思って　　エ　目ざわりでうっとうしいと思って

❷　敢然として

ア　思い切って　イ　落ち着いて　ウ　すばやく　エ　こっそりと

問三　――部①「アンパンマンも怖い時があるんじゃないかと思います」とありますが、筆者がこのように言うのはなぜですか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　正義を行う人は自分から怖いと言うとかっこ悪いから。

イ　正義を行う人は特別な人ではなく、我々と同じ弱い人だから。

ウ　正義を行う人は戦う時には一人で戦わなければならないから。

エ　正義を行う人は自分のすごさをひけらかして自慢しないから。

問四　――部②「戦う時は友達をまきこんじゃいけない、戦う時は自分一人だと思わなくちゃいけないんだ」とありますが、これと同じ内容を表している部分を二十字以内で本文中から抜き出して答えなさい。

問五　――部③「アンパンマンは時々、自分の悪口を言う相手のことを助けることがあります」とありますが、それはなぜですか。次のア～エの中からもっともふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　アンパンマンはヒーローだから。

イ　アンパンマンは悪口を言われているのを知らないから。

ウ　アンパンマンはこまっている人がいたら助けるから。

エ　アンパンマンは誰にだって失敗があることをわかっているから。

問六　――部④「自分が傷ついてもやる」とありますが、これと同じ内容を表している語句を本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問七　――部⑤「普通の人でもヒーローになることはできます。誰でもなれると思いますよ」とありますが、どうしたらヒーローになれるのですか。本文中の言葉を使って三十字以上四十字以内で説明しなさい。

問八　――部⑥「やむにやまれぬ立場」とありますが、本文中にあげられている「やむにやまれぬ立場」の具体例としてふさわしくないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　火事で子どもが焼け死にそうになっているのを見たお母さん。

イ　線路に落ちた人を助けようとする人。

ウ　川でおぼれている子どもを助けるために川に飛び込む先生。

エ　会社の全体で偽装をしていることを摘発する人。

問九　本文の内容にあうものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　アンパンマンは泣かないし何も食べない上に自慢もしない、非常に強い正義のヒーローである。

イ　「横断歩道もみんなでわたれば怖くない」という具体例は、悪いことをする時には責任は自分で負う必要がないということを示している。

ウ　誰でもヒーローになれるが、寂しいし感謝もされないのでヒーローは実際の社会には必要ない。

エ　戦い方や強さ弱さはそれぞれのやり方があるが、正義を行うには愛と勇気が不可欠だ。

二　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

小学生だった「ぼく」（進）と姉の佳奈（かな）は、広一と出会い三人で仲良くなった。

広一は、幼い頃、交通事故で父親を亡くし、ピアニストの母と二人で暮らしていた。その時の事故で左手を失くしたものの、広一はピアノが好きで、母の好きな「サマータイム」という曲を右手だけで弾（ひ）いていた。当時、ピアノが弾けなかった「ぼく」は、広一のピアノに憧（あこが）れを感じていた。一方佳奈は、片手しかない広一が自転車に乗れないことを心配して、広一の自転車の練習にずっと付きそっていた。そんなある日、広一は二人に別れを告げずに急に引っ越してしまった。その後一度だけぼくと広一は手紙のやり取りをした。

八月。夏の終わり。

ブザーに答えたのは、佳奈だった。

「進！　お客さんっ」

玄関（げんかん）から、かん高い声で叫ぶと、佳奈はそのまま外に出て行ってしまった。

ぼくはしばらく、その長身の青年がわからなかった。

「表札、変わっていないから、大丈夫だと思って」

そう言って、照れたようににやっとした、その笑い方、目の光、頭の奥のピントが突然（とつぜん）ぴたりと合った。

その時の感情はえもいわれない。思わず、声がうわずっていた。

「伊山くん、あんまり変わんないな」

「そ、そうかな。……広一くんは、変わったなあ！」

ぼくは、［ i ］眺（なが）めまわしてしまった。初対面のプールの時と、そっくりの失礼な目つきでね。①目のやり場に迷う、例のはにかんだ表情が、ぼくの胸を熱くした。

大学一年の彼は、家族と離れて、この近くに下宿していると言う。

「お母さん、元気？」

ぼくが聞くと、広一くんは、やはり、どことなくはにかんだ様子でにっこりした。

「うん。まじめに主婦やってる。オレ、妹が出来たよ。まだ、赤ちゃんだけど」

「……ああ結婚したんだね！　幸せ？」

「うん。なかなか……と思う」

微妙に間のあく、とぎれとぎれの会話に笑ってしまった。なんだか照れ臭くてだめだ。昔みたいに素直に話せない気がする。佳奈はどこに行ったんだろうと思いながら、口にするのをためらった。

広一くんはぽつぽつと自分のことをしゃべりだした。主に大学の話だった。理工系の学校に行っている彼は、コンピュータのハードの研究に熱中していた。ぼくは適当にあいづちを打っていたが、❶不得手な分野でよくわからない。相変わらず光の強い彼の目を見ながら、信じられないくらい大人っぽくなったなとつくづく思った。もともと大人っぽい子供だったが、早くも本物の大人になってしまった。

ぼくは十九歳の浅尾広一にすっかりとまどった。昔話なんか持ち出す雰囲気じゃないんだ。ぼくはなつかしさにふるえながらも、彼との距離感をつかみかねていた。だから、なんだか、おそるおそるって感じで尋ねた。

「ピアノ、やってる？」

「ああ、そう言えば弾かないな」

広一くんはしごくあっさりと答えた。

その時の失望があまり深かったので、ぼくは広一くんの伴奏をするためにピアノを続けていたような気持ちになった。②ぼくはジャズ研の話が出来なくなった。サマータイムを弾けるようになったことを言うのもやめた。何も簡単なことじゃないか。こう、言えばいいんだ。

――たまには弾いてみない？　実は、ぼく、やってんだよな。ピアノ。ねえ、ちょっと、一緒に弾こうよ！

ぼくは、きっと、ひどく女々しい性格なんだと思う。それがわかっているから、※1おセンチに見られるのを、やたらと恐れるんじゃないかな。妙に格好をつけちゃうんだ。広一くんに部活のことを聞かれて、ぼくはスカした野郎になった。

「ちょっと、ジャズ、とかやってるけど……ピアノ」

最後につけ加えると、突然、まっかっかになってしまった。

「ああ」

広一くんの目が輝いた。

「③君が！」

それは、心に深々と残るような言い方だった。意外、という驚き（おどろ）じゃなく、つまり、つまり、なんか、まるで……。うん、あんまり、おセンチなこと、言うのはやめるけど、でも彼は喜んだ。喜んだんだ！

「これは、母さんに言わないと」

広一くんは言った。

「もっと、うまくなったら、弾くから。君や君のお母さんに聴いてもらえるように、もっと練習して」

ぼくは言った。広一くんは大きくうなずいた。八月の太陽のように、明るい強いまなざしがまっすぐにぼくを見る。

「ああ、ぜひね。本当にね」

何かがつながった！ ④あの遠い日から今までの、すべての夏がピアノの音で数珠（じゅず）つなぎになった——そんな最高の感じがしたんだよ。

帰り際、玄関で広一くんは言った。

「お姉さんによろしく」

そこで、ぼくは尋ねた。

「昔、佳奈とけんかしたの？」

広一くんは、ふっと顔をくずした。

「そう。オレ、すごい怒らせちゃった。みっともないね。びびっちゃって、ぜんぜん、自転車、乗れなかったんだ」

「あいつ、ぼくの自転車、めたくたにこわしたんだぜ」

「えっ？」

広一くんは目を見張った。でも、ぼくは❷かぶりをふった。

「なんでもないよ」

佳奈の話は、ぼくがしないほうがいいような気がした。

アネキはきっと一目で広一くんがわかったんだと思う。ぼくは、妙な確信があった。それで、あいつは逃げ出した。なぜ？

それは、佳奈が自転車をがたがたにしたり、手紙の返事を書かなかったり、ぼくのピアノを聴きたがったりするのと、同じことなんじゃないかな。もしかすると、佳奈は、ぼくよりもっと、〝六年前〟をそっくり心に残してこわすことが出来ずにいるのかもしれない。

ぼくは、そんなことを考えながら、五階の階段の踊り場から下をのぞいた。ここから、C—3の入口がよく見えた。ぼくは広一くんをエレベーターのところまで、送ってきたのだ。

そして、ぼくは佳奈の姿を見つけた。なんだか背筋が寒くなるような感じがして、あわてて階段を二、三歩降りかけた。⑤まずいよ。それは、まずいよ、佳奈！

彼女は自分の自転車のハンドルにつかまって立っていた。厳しい午後の太陽に照らされて、長い巻き毛が白っぽく乾いて見えた。ぼくはわかった。彼女は、広一くんと入れ替わりに家を出てから、ずっとそこにいるんだ。⑥昔より一まわり大きな赤い自転車を引き出して、いつ出てくるかわからない広一くんをこの炎天下にずっと待っていたんだ。真っ白い強烈な日光の中、帽子もかぶらず、きっと触れると手が痛いほど髪の毛を熱くして……たくさんたくさん汗をかき、小生意気な頭をくらくらさせて……。

ぼくにとって広一くんが［ii］であるのと同様、佳奈にとって、彼は自転車だった。ぼくは、そのバカげた感情が痛いほどわかった。でも、だめだよ。彼はもう大人なんだ。ぼくだって、彼にピアノを弾けとは言わなかったんだ。浅尾広一に、今さら自転車のことなんかで恥をかかすのはやめろよ。

「佳奈ぁ！」

ぼくはどなった。彼女は上を見上げた。でも間に合わない。広一くんが出てきてしまった。

二人は顔を合わせ、言葉を交わした。それはすごく自然な感じに見えた。やがて、広一くんは

佳奈からハンドルを受け取ると、ゆっくりと赤い自転車をひいて歩き出した。ぼくは鼓動が速くなった。乗る気だろうか。乗れるんだろうか。

広一くんがサドルにまたがる。ああ、乗る気だ。右手がハンドルを握り直す。やっぱり乗れるんだ。そして、彼は佳奈に何かを言った。

白いスカートの佳奈が荷台に横座りして、広一くんの背中をかかえた。あっと思う間もないすばやい動作だった。

二人乗りの自転車が軽々とスタートをきる。広一くんは、やや腰を浮かしぎみにペダルをこいだ。車体は少しのぐらつきも見せない。ぼくは息をつめて見ていた。なかなか、あんなスマートなスタートは出来るもんじゃないって、思いながら。

後ろに佳奈という荷物を乗せて、右腕一本のハンドルさばきで、彼の自転車はぐんぐん加速していく。二つの車輪が八月の光をけちらした。彼等の進む方向、B—2のキョウチクトウ[※2]の垣根。そのすさまじい桃色の中に赤い自転車は一気に溶けていくようだ。

⑦ぼくの頭の中でふいにピアノの音が踊り出した。

右手だけの力強いサマータイム！

（佐藤多佳子『サマータイム』）

※1　おセンチ…センチメンタルの略。感傷的なこと。涙もろい様子。

※2　キョウチクトウ…植物の名前。桃に似た花を咲かせる。

問一　空らん［i］にあてはまる言葉としてもっともふさわしいものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ぼんやりと　　イ　まじまじと　　ウ　あわてて　　エ　まざまざと

問二　空らん［ii］にあてはまる言葉を本文中から三字で抜き出して答えなさい。

問三　――部❶・❷の語句の意味としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

❶　不得手な

ア　有名ではない　　イ　くだらない　　ウ　とくいではない　　エ　かなり難しい

❷　かぶりをふった

ア　否定した　　イ　うなずいた　　ウ　平気な顔をした　　エ　手を振った

問四　――部①「目のやり場に迷う、例のはにかんだ表情が、ぼくの胸を熱くした」とありますが、このときの「ぼく」の気持ちとしてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　広一が突然やってきたので、どのように接したらいいのかわからず、こまっている。

イ　待ちに待った広一がついに会いにきてくれたため、あまりのうれしさに興奮している。

ウ　広一の変わりはてた姿にびっくりしたが、よく見ると広一だったのでホッとしている。

エ　久々の再会に驚き、緊張したが、昔ながらの広一らしい笑顔が見られて感動している。

問五　――部②「ぼくはジャズ研の話が出来なくなった。サマータイムを弾けるようになったことを言うのもやめた」とありますが、それはなぜですか。この時の「ぼく」の気持ちを説明した次の文章の空らん(1)・(2)にあてはまる言葉を考えて答えなさい。

ぼくは［　(1)　二十字以内　］と思ってピアノを始めたのに、広一くんはすでにピアノを辞めていたので、［　(2)　六字以内　］から。

問六　――部③「君が！」とありますが、このときの広一の気持ちとしてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　今まで全く音楽に興味がなかった進がまさかピアノを始めたなんて、信じられないと驚いている。

イ　小学校時代の思い出に、進だけがずっとこだわっているような感じがして、違和感（いわかん）を感じている。

ウ　進がピアノを始めたことを聞き、自分との思い出を大事にしてくれていたことが分かり、喜んでいる。

エ　実は昔から、広一は進と一緒にピアノを弾いてみたいと思っていたため、夢が実現しそうでワクワクしている。

問七　――部④「あの遠い日から今までの、すべての夏がピアノの音で数珠つなぎになった」とありますが、それはどういうことですか。もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　広一との出会いがきっかけでピアノを始められたので、感謝しているということ。

イ　進も広一も、互いに生活する中で抱いてきた様々な思いが、今通じ合ったということ。

ウ　あいまいだった昔の記憶が、広一と話すことで思い出され、つながったということ。

エ　お互いに、大人になった部分と、子どものままの部分が合わさって一つになったということ。

問八　――部⑤「まずいよ。それは、まずいよ、佳奈！」とありますが、なぜ「ぼく」は佳奈を止めようとしたのですか。その理由を、「ぼく」の気持ちをふまえて、四十字以上四十五字以内で説明なさい。

問九　――部⑥「昔より一まわり大きな赤い自転車を引き出して、いつ出てくるかわからない広一くんをこの炎天下にずっと待っていたんだ」とありますが、この行動から読みとれる佳奈の人物像としてもっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　たとえ相手が嫌がっていても、いつまでも昔のことにこだわり続け、他人を追い詰めてしまう性格。

イ　広一の自転車の練習に関しては、どうしても最後まで自分一人で見届けたいという責任感が強い性格。

ウ　広一のことが気になり、ずっと忘れられずにいたが、その感情を上手に伝えることができない不器用な性格。

エ　相手の立場に立って物事を考えるのが苦手で、他人の気持ちに気がつくことのできない自己中心的な性格。

問十　――部⑦「ぼくの頭の中でふいにピアノの音が踊り出した。／右手だけの力強いサマータイム！」とありますが、ここには「ぼく」のどのような思いがこめられていますか。もっともふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　広一が引っ越してから、今までずっと悲しんでいた佳奈を近くで見ていたので、正式に二人が付き合うことになって本当によかったと安心している。

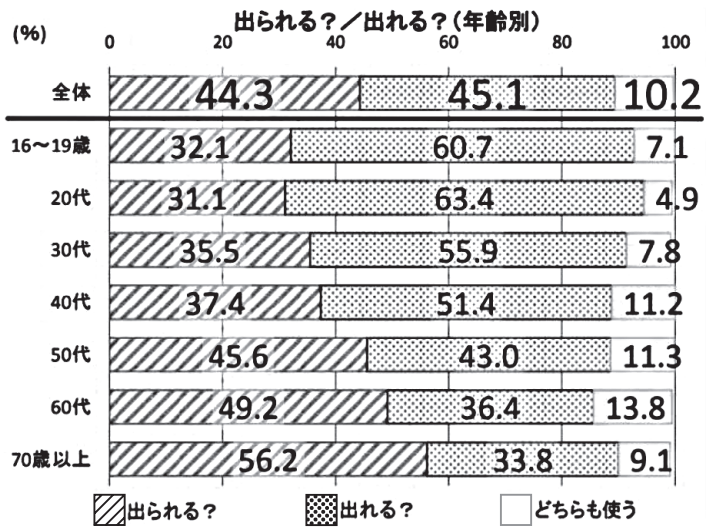
イ　本当は今まで通り三人で仲良くしたいのに、広一は佳奈を自転車に乗せて行ってしまったため、佳奈をとられてしまったとやきもちを焼いている。

ウ　広一が自転車に乗る姿を見て、自分も今まで広一に会いたかったのを、ずっとがまんしてきたことが思い出され、急に感情があふれ出し、涙をこらえている。

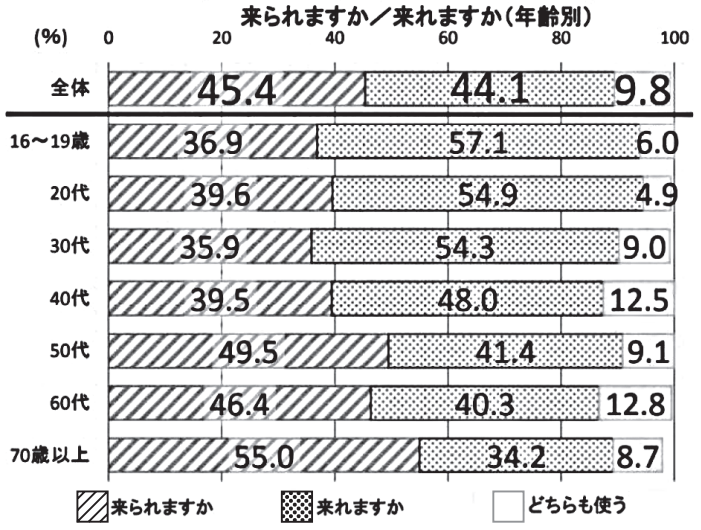
エ　佳奈を乗せて勢いよく飛び出した広一の自転車の後ろ姿を見て、改めて三人の絆を実感すると同時に、新たな一歩を踏み出したことを感じている。

三　次のグラフは日本語における表現方法のアンケートをグラフ化したものであり、あとの会話はそれについて、生徒同士で話し合っている場面です。それぞれの問いに答えなさい。

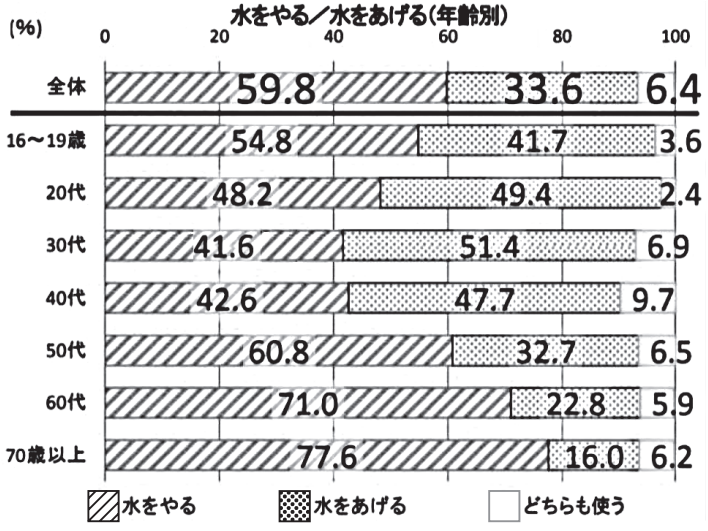
【Ⅰ】



【Ⅱ】



【Ⅲ】



（出典：文化庁「平成27年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」より抜粋）

Aさん：【Ⅰ】と【Ⅱ】は「ら」抜き言葉についてのアンケートだね。よく見てみよう。

Bさん：【Ⅰ】では16～19歳と20代が逆転しているけれど、その他は年齢が高くなるにつれて、「［1］」が多くなっているね。なぜ、逆転しているんだろう？

Cさん：高校生が含まれる年代だから、先生方に「ふさわしい日本語を使いなさい」って、普段から意識させられているのかな？　この現象は興味深いね。

Dさん：【Ⅱ】を年齢別にみてみると、「来られますか」は、［2］代以下で3割台となっているね。「来れますか」は、年代が低いほど高くなる傾向があり、40代では、「来れますか」の方が［3］％多いね。

Eさん：【Ⅱ】のグラフは年齢別の傾向が読み取りづらいね。「来られますか」が一番低いのが［4］代なのは意外だけどね。

Fさん：そうだね。それを言ったら、【Ⅲ】でも一番「やる」が低いのは［4］代になっているね。

Gさん：【Ⅲ】はどちらが正しい表現なの？

Hさん：植物やペットなどに使う表現だね。「あげる」の方が大事にしているように感じるから、「あげる」が正しいと思う。

Iさん：違うよ！　本来、「あげる」は目上の者から目下の者に使う「与える」の［☆］だから、植物やペットに［☆］を使うのは間違っているんじゃないかな。

Jさん：3つの表現とも全体としては年代が［5］ほど斜線部の割合が上がっているということは、「やる」「出られる」「来られる」が正しい日本語なのでは？

Lさん：ここまで「ら」抜きことばや「あげる」という表現が浸透しているのであれば、もう簡単に誤用と言ってしまってはいけないのかもしれないね。

問一　空らん［1］～［5］にあてはまる語句や数値として、もっともふさわしいものを、次のア～ソの中から選び、記号で答えなさい。

ア　出られる？　　イ　出れる？　　ウ　高くなる　　エ　低くなる　　オ　16～19歳
カ　20　　キ　30　　ク　40　　ケ　50　　コ　60
サ　70　　シ　8.5　　ス　9.5　　セ　10.5　　ソ　11.5

問二　空らん［☆］にあてはまる語句としてふさわしいものを、次のア～ウの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　尊敬語　　イ　謙譲語　　ウ　丁寧語